

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	有村 祐輝 ( ありむら ゆき )
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学 人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	有村祐輝
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	罪悪感が身体症状に与える影響の検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>うつ病は、精神疾患のなかでも特に身体疾患の危険因子や予後影響因子となることが注目されている。うつ病の症状として、DSM-5 では9つの症状が大うつ病性障害の診断基準として挙げられているが、その中でも、特定の症状が存在するかを測ることで、軽症あるいは中等症以上のうつ病を判別することができる。特に、無価値感・罪悪感では中等症以上のうつ病患者を判別することが可能である (宮坂・熊野, 2003)。これは、無価値感・罪悪感がうつ病の中でも注目すべき症状であることを示唆している。うつ病の重症度には、身体症状の重さも大きく関与していることから、無価値感・罪悪感とうつ病と身体疾患との関係にも特に影響していることが予測される。これまでの研究では罪悪感と身体症状全般との関係を検討してきたが、身体症状の中でも罪悪感と関連のある項目については検討されていない。そこで、本研究では、うつの特徴とされる罪悪感について身体症状へ与える影響を症状ごとに検討することを目的とした。質問紙は、(a) フェイスシート (b) 罪悪感の測定 : 青年期における自責感の特徴 (桑原・井上, 2006) の罪悪感尺度 (c) 身体症状の測定 : Cornel Medical Index 日本語版 (CMI; 金久・深町, 1976) を使用した。学生 170 名を対象に質問紙調査または Google フォームで調査を行った。回答漏れが見られた 4 名を除外し、有効回答 166 名 (男性 65 名、女性 101 名、平均年齢 20.14 歳、SD=1.466) を分析対象とした。CMI の身体的自覚症状 144 項目それぞれと、罪悪感 尺度との相関分析を実行した。泌尿生殖器系は、男性用質問紙回答者・女性用質問紙回答者ごとに分析をした。その結果、CMI の下位尺度である (A) 目と耳、(B) 呼吸器系、(C) 心臓脈管系、(D) 消化器系、(E) 筋肉骨格系、(F) 皮膚、(G) 神経系、(H) 泌尿生殖器系、(I) 疲労度、(J) 疾病頻度、(K) 既往症、(L) 習慣のうち、(A) 目と耳からは 1 項目、(B) 呼吸器系から 2 項目、(C) 心臓脈管系 から 1 項目、(D) 消化器系から 5 項目、(G) 神経系から 1 項目、(H) 泌尿生殖器系から 6 項目、(I) 疲労度から 4 項目とそれぞれ有意な相関が見られた。罪悪感と関連のある身体症状にはいくつかの特徴があることが明らかとなった。</p>	

※無断転載禁止